



# みどり



## 109号 『ダニが媒介する感染症』

2017年4月1日発行／編集責任者 田中 眞／毎月1日発行／群馬県藤岡市篠塚105-1  
<http://www.shinozuka-hp.or.jp/center/>

「ダニ媒介感染症」とはウイルスなどの病原体を持ったダニにヒトが咬まれることにより発症する感染症の総称です。ここ数年、ダニ媒介性の新しいウイルス性感染症の患者が日本国内で報告され話題になっています。気温の上昇とともにダニは活動期に入り、ヒトも野外での活動が増える季節になります。知っておきたいダニ媒介性感染症とその対策についてまとめました。

### 国内におけるダニ媒介感染症は？

国内で知られている主要なダニ媒介感染症を表1に示します。

表1. 国内の主なダニ媒介感染症

- 重症熱性血小板減少症候群
- ツツガムシ病
- 日本紅斑熱
- ライム病

以下に各疾患を解説します。

### 重症熱性血小板減少症候群とは？

重症熱性血小板減少症候群 (Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome; SFTS) は、SFTS ウイルスに感染することによって引き起こされる感染症です。SFTS ウイルスはマダニ (大型のダニの一種) が保有しており、ヒトがこのマダニに咬まれることで感染します。

潜伏期間は数日～2週間程度で、発熱、消化器症状が多くみられ、血液検査では白血球減少、

血小板減少などを呈します。

国内では2013年1月に初めて報告されました。2017年3月1日現在で、全国で発症したSFTS累計患者数は229例、月別発生患者数はマダニの活動期である5月から8月が最も多く、地域では西日本を中心に発生しています。年齢は60～80代に多いです。

現在のところ有効な治療法は確立されておらず、対症療法が中心となります。また、ワクチンもありません。

\* \* \*

SFTSは中国において2009年頃から発生が報告され、2011年に原因ウイルスが特定された新しいダニ媒介感染症です。原因ウイルスは新規ウイルスで、疾患名をとってSFTSウイルスと命名されました。

\* \* \*

マダニと、家庭内に生息するダニ (食品等に発生するコナダニ、衣類や寝具に発生するヒョウヒダニなど) は種類が異なります。マダニは固い外皮に覆われた比較的大型のダニで、主に森林や草地等の屋外に生息しており、市街地周辺でもみられます。日本には、命名されているものだけで47種のマダニが生息していますが、すべてのマダニがSFTSウイルスを保有しているわけではありません。

## ツツガムシ病とは？

ツツガムシ病は、オリエンチア・ツツガムシというリケッチア属の微生物を原因とする感染症です。ツツガムシ（小型のダニの一種）によって媒介されます。

発生は春～初夏および晩秋～冬ですが、ダニの生息地域および種類によって異なります。かつては山形県、秋田県、新潟県などで下記に河川敷で感染する風土病でしたが（古典型）、近年は発生地が拡大し、全国で発生がみられます（新型）。年間 400 人前後の感染報告があり、年齢では 50 歳代以上で多く、70 歳代以上がほぼ半数を占めています。

潜伏期間は 5 日～2 週間程度で、発熱、発疹に加えてツツガムシの刺し口がみられることが特徴です。

治療には抗菌薬が有効です。予防のためのワクチンはありません。

## 日本紅斑熱とは？

ツツガムシ病と同じくリケッチア属の微生物を原因とする感染症です。本邦においては紅斑熱群リケッチアの一種である *Rickettsia japonica* が原因となります。マダニにより媒介されます。

近年は増加傾向にあり、年間平均約 150 人の報告があります。以前は西日本の太平洋沿岸から多く発生していましたが近年は拡大傾向にあります。全国的には夏から初冬に多く発生しますが、真冬を除いてほぼ一年中感染する可能性があります。

感染マダニに刺咬された後、2～8 日後に発症します。発熱、発疹と刺し口がほとんどの症例で見られます。

治療には抗菌薬が用いられます。予防のためのワクチンは開発されていません。

## ライム病とは？

ライム病はボレリア菌によって引き起こされる感染症で、マダニにより媒介されます。

夏から初秋にかけて、樹木の多い地域、標高 800m 以上の山岳地域などで、年間 10 人前後の発生がみられます。

マダニの刺咬、吸血の数日から数週間後に、刺咬部と中心とした特徴的な遊走性紅斑が多くの例で見られます。随伴症状として筋肉痛、関節痛などのインフルエンザ様症状を伴うことがあります。その後病原体が全身に拡散すると、神経症状（末梢性顔面神経麻痺など）、心疾患、がん症状などの多彩な症状を呈します。

治療には抗菌薬が有効です。日本国内で認可されているワクチンはありません。

## ダニ媒介感染症の予防は？

いずれのダニ媒介感染症も有効なワクチンはないため、ダニの刺咬を防ぐことが最も重要な予防となります。発生地や時期を知り、ダニの生息地域へは十分な対策をとったうえで立ち入るようにしましょう（表 2）。

表 2. ダニ媒介感染症の予防と対策

- 屋外での活動時は
  - ・皮膚の露出を少なくし、ダニの付着を防ぐ
  - ・ダニを判別しやすい明るい色の衣服を着る
  - ・ダニ忌避剤を使用する
- 帰宅後は
  - ・上着や作業着を屋内に持ち込まない
  - ・すぐ入浴し体を洗い、新しい服に着替える
- ダニが吸着していたら
  - ・無理に引き抜こうとせず、できるだけ病院（皮膚科）で処置してもらう

ダニが吸着していたら、無理に取らないほうが良いでしょう。とくにマダニは口器が長く、皮膚に深く刺咬しているため、除去には十分な注意が必要です。

（文責：金子 由夏）